

長年にわたり地域発展に尽力 3部門3人に市民表彰

11月3日、小林市市民表彰式典が文化会館で行われました。表彰されたのは、永野雪道さん（地方自治部門）、里岡香さん（教育・芸術・体育・文化部門）、小城正子さん（公共福祉部門）の3人。代表して里岡さんが「より一層気を引き締め、豊かな郷土小林のため、微力ながら今後も努力したい」と謝辞を述べました。



ながのゆきみち
永野雪道さん（地方自治部門）

少年補導員として多年にわたり市の防犯、少年の健全育成に尽力。南西一の東区長を12年間務め、その発展に貢献されました。

さとおかかおる
里岡香さん（教育・芸術・体育・文化部門）



小林地区バレーボール協会会長などの要職を歴任。現在も市グラウンドゴルフ協会理事として、生涯スポーツの振興に寄与されています。



こじょうまさこ
小城正子さん（公共福祉部門）

多年にわたり市の民生委員児童委員として地域福祉活動に貢献。長年培った知識で、後進の指導にも力を注いでこられました。

福祉バザーが今年も大盛況

10月26日、福祉バザーが市民体育館で開催されました。福祉関係の12団体が出店し、約1,000人が来場。開場と同時に、館内は買い物客の熱気で大にぎわいとなりました。売り上げの一部は、地域福祉推進活動費や災害義援金などに当てられます。



政策提言のさらなる向上と 「善政」を競い合う

政策の実績などを競う第8回マニフェスト大賞で、小林市の政策「協働により九州一安心安全なまち小林市」が優秀復興支援・防災対策賞を受賞しました。明確な考え方や防災・防犯メール1万人登録・防災リーダー100人という目標を掲げ、着実な成果をあげていることが評価されました。



全国各地からの応募は過去最高の2108件。11月1日には授賞式があり、6部門で36の個人・団体が受賞しました

土俵入りで健やかな成長を 秋の風物詩すきほぜまつり

11月3日、須木ほぜまつりが須木地区体育館で開催されました。6チーム27人が参加した地区対抗のほぜっこ相撲では、小さな力士たちが手に汗握る熱戦を展開。また恒例の赤ちゃん土俵入り、いちょう太鼓の披露やマグロ解体ショーなど多彩な催しがあり、多くの人でにぎわいました。



赤ちゃん土俵入り。化粧まわしをして、大人に抱えられた赤ちゃんたちは、泣いたり、嫌がったりと愛らしい姿を見せていました



弁当にはシロチョウザメとシベリアチョウザメの2種類を使用。鶏の空揚げ、卵焼きなどが入り880円で販売されています

チョウザメのご当地弁当完成 市内2店舗で販売開始

10月29日、市の新ご当地弁当「チョウザメ炙りちらし」の完成披露会並びに協定調印式が行われました。市チョウザメ料理推進協議会と、弁当を販売する(有)くま扇、(有)きりしま食品が材料や調理法、価格などを定めた協定書に調印。その後、試食会が行われました。



神事や玉串奉奠、甲踊り、四半的納射で伊集院家を祭り、地区内の安全を祈願しました

野尻大火から100年目 伊集院家を祭り安全を祈願

10月30日、無残な死を遂げた伊集院源次郎の供養と野尻大火の教訓により地域の安全を祈願する伊集院源次郎恒例祭が行われました。今年、野尻大火から100年の節目の年。永池坦伸奉賛会長は「祭の起源である甲踊りは約400年続く伝統。これからも大切にしたい」と話していました。

商店街へにぎわいを 子供100人が仮装行列

10月27日、子どもたちが仮装して商店街を歩くハロウィンウォークが開催されました。客足の減る商店街を子どもや親に歩いてもらい、魅力を知ってほしいと、商店街賑わい創出事業事務局が企画。仮装した子ども100人が、赤松通りや中央通りなどの商店を訪ね、お菓子をもらっていました。



ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat (お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ)」とあいさつし、お菓子をもらう子どもたち

市内散策や農作業を体験 移住体験ツアーに20人参加

10月29と30日、移住体験モニターツアーが市内で開催されました。NPO法人エコワールドきりしま、iさいとが共同で企画し、関東や東北から小林への移住に関心を持つ20人が参加。参加者は、まちの散策、地域住民との交流会や農作業などを体験し、小林への理解を深めました。



農作業体験のひとつとして、杵、臼と新米を使った餅つきを体験。温かい湯で蒸かした餅を自分たちで丸めて食べていました

紅葉彩る県道1号で育樹祭を開催

11月1日、沿道の美化と緑化を目的に、県道1号みどりのトンネル育樹祭が行われました。事業所や市民ら約160人が参加。参加者は、県道1号の旧料金所跡から展望所までの約8キロにわたり、樹木の枝の除伐や下払い、清掃などを行いました。



細野小・中で公開授業や研究発表

11月6日、小中一貫教育推進モデル校の細野小・中学校で研究発表会が行われました。市内外の教育関係者ら180人が参加。国語や英語など17種の公開授業や、同校の教諭、生徒やPTAによる研究発表があり、小中一貫教育による学力向上について理解を深めました。



リサイクルについて考えよう

11月10日、環境フェスタが中央公民館で行われました。リサイクルをテーマに(株)ホシヤマ、NPO法人赤とんぼと市が協力して開催。小中学生の描いたポスターの授賞式や講演会、木の実やツタを使ったクリスマスリース制作などを行い、環境問題に関する理解を深めました。



優秀な読書感想文・感想画を表彰

11月16日、市立図書館で読書まつりが開催され、読書感想文・感想画の表彰式が行われました。276点の応募があり、うち56人の児童生徒が市長賞、議長賞などを受賞。受賞者を代表し、三松小4年の戸高愛さんと細野中3年の中園明日香さんが感想文を朗読しました。



吉都線沿線を菜の花畑にイエロープロジェクト始まる

吉都線100周年記念事業小林市実行委員会とこばまちづくり協議会が、JR吉都線の沿線を菜の花で埋め尽くすイエロープロジェクトに取り組んでいます。11月10日には、約30人が参加し、西小林的線路沿いの田んぼ約9畝に種まきを実施。3月下旬には、満開となる予定です。



今後は成長した菜の花から種を採取し、毎年このプロジェクトを続け、将来的には50畝の菜の花畑を目標にしています

郷土料理「がね」の食べ比べのじりこぴあでコンテスト開催

11月17日、がねコンテストがのじりこぴあで開催されました。5チームが参加し、ハーブや豆腐を入れるなど趣向を凝らした郷土料理のがねを出品。来場者約500人が、食べ比べをしていました。
【以下結果】1位・おかべちゃん！ /2位・市民団カタロウ会 /3位・さくら



上位3チームは、12月1日に駅南で開催される決勝大会への出場権を獲得。予選を突破した鷺島を囲む各市町村の代表と競います



11月6日、安全祈願祭があり関係者ら20人が出席。式後には、リンを回収する炭化装置の説明がありました

国内初。堆肥からリンを回収 堆肥センターで実証実験開始

国内初となる豚ふん堆肥から農業用肥料の原料となるリンを回収する実証実験が、小林堆肥センターで始まりしました。実験には、日立造船、宮崎大学、大阪府立環境農林水産総合研究所、熊本大学が参加。輸入に頼っているリンの安定供給と、環境問題の解決に期待が寄せられています。



音楽に合わせて運動する参加者。川西副学長は「運動は継続が大切。仲間を作って楽しく活動してもらいたい」と話していました

筋肉を蓄えてずっと元気に ゴールデンエイジ大会開催

11月9日、高齢者の体力向上を目的とするゴールデンエイジ大会が市民体育館で開催されました。講演では鹿屋体育大学の川西正志副学長が登壇し、身体機能の維持と改善を図る「貯筋運動」を指導。参加者は、椅子を使いながら、音楽に合わせてリズムカルに5種類の運動を行っていました。

秋の叙勲で旭日小綬章 元市議会議長の今屋敷忠さん

11月3日、秋の叙勲が発表され、細野在住の元小林市議会議員の今屋敷忠さんが旭日小綬章を受章しました。6日には県庁講堂で知事伝達式があり、社会の各分野で功績のあった県内17人の叙勲・褒章受章者を代表し、今屋敷さんが「次の目標に向かって努力したい」と謝辞を述べました。



今屋敷さんは、昭和50年から6期24年間、小林市議会議員として在職し、議長を務めるなど地方自治に貢献されました

ナースキャップで気持ち新た 准看護学校で戴帽式

11月6日、西諸医師会立小林准看護学校で戴帽式が行われました。式を迎えたのは1年生20人。生徒は教員からナースキャップを与えられ、ナイチンゲール像の火で、手に持ったろうそくを灯しました。内村大介校長は「患者に心から感謝される看護師になってほしい」と激励しました。



生徒は4月に小林西校衛生看護科に入学。今後、昼間定時制に通いながら准看護師免許取得を目指します